

## 平成29年度真岡市水道事業上半期業務状況説明書 (平成29年4月1日～9月30日)

真岡市水道事業は、すべての市民に清浄でおいしく、豊富で安全な水道水を供給するため、配水管（水道水を浄配水場から各戸に送るための管）の拡張・改良、水道施設の更新・修繕等を行うとともに、料金業務の民間委託等により経費の節減に取り組み、経営の健全化に努めています。

また、水道施設の効率的な維持管理と料金体系を含めた経営の一元化を図るため、平成25年度末に簡易水道事業を統合し運営しています。

はじめに、給水状況につきましては、当期末における給水世帯は25,780世帯、給水人口は68,195人で、前年同期と比較し、給水世帯で528世帯、給水人口で94人増加し、普及率は84.3%となっています。給水世帯数・給水人口が共に増加した要因は、宅地分譲等によるものと考えられます。

配水量（配水管に送られた水量）と有収水量（配水量のうち水道料金として回収された水量）を前年同期と比較すると、配水量が2.0%、有収水量が1.6%と共に増加し、有収率（配水量に対する有収水量の割合）は0.3%減少しています。有収率が減少した要因は、給水管の漏水の増加等によるものと考えられます。

次に、経理状況につきましては、収益的収支では、収入は予算額に対して48.6%、支出は同42.7%の執行率となっています。なお、収入の大半を占める給水収益（調定額）は、前年同期と比較して1.3%（約1,000万円）増加しています。

収益的収支における収支差引額は77,287千円の純利益となり、前年同期と比較して11.6%（約8,000万円）増加しています。主な理由としては、給水収益が増加しているほか、企業債借入額の減少に伴い支払利息が減少しているためです。下半期については、有収率が減少していることから、要因と考えられる地域の漏水調査の実施及び漏水修繕工事を予定しています。

資本的収支では、収入は年度内の工事実績により金額が決定する企業債及び工事負担金が大部分を占めているため、予算額に対して4.2%、支出は同24.9%の執行率となっています。

なお、資本的支出における当期の配水設備拡張工事請負費は、予算額346,010千円に対して、契約済額は約41,000千円（執行率11.8%）で、亀山北及び中郷・萩田土地区画整理地内のほか下籠谷や下大曾地内などの配水管布設工事を実施し、これにより、配水管は約1,200m延長されることとなります。また、配水設備改良工事請負費は、予算額275,116千円に対して、契約済額は約202,000千円（執行率73.4%）で、県道西小墺真岡線配水管改良工事や石法寺浄水場遠方監視装置等更新工事などを行っており、概ね計画通りに進められています。下半期については、引き続き配水管布設や施設の更新工事を予定しています。

次に、今後の経営方針につきましては、現状の経営状況は健全であります。今後、人口減少による給水収益の伸び悩みや減少が見込まれる中、水道施設の老朽化が進行していくため、限られた財源で安定した水道水の供給を実現できるよう計画的かつ効率的な経営を目指します。